政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2014年９月24日～10月６日） 渡辺　努：東京大学大学院経済学研究科教授

質問事項		選択式回答	記述式回答
経済動向			
1-1	現在の経済状況について、関連する業界、地域等の現状やご自身の知見・経験等を踏まえ、3か月前(6月下旬から7月上旬)と比べて良くなっているか、悪くなっているか選んでいただき、その理由をデータや具体的な事例とともに300字以内でご記入ください。その際、前年との違い等お気づきの点があれば併せてご記入下さい。	悪くなっている	東大渡辺研究室が作成・公開している東大日次物価指数は8月半ばから前年同日比（税抜）のマイナス幅が拡大し，8月末には前年比▲1%まで低下した。10月2日現在▲0.6%まで回復してきているが基調は弱い。売上指数（東大物価指数と同じ店舗の売上データから作成したもの）も捗々しくない。天候要因もあるが，より基本的には消費増税に伴い実質でみた所得が減少していることがある。なお，MITの研究者が計測している日本の日次物価も8月中旬以降，同様の低下を示している。異なる手法で算出されている2つの日次指数が物価下落の警報を出しているという事実は重い。
1-2	今後の経済のリスク要因（第1回時点と比較して変化がある場合）、あるいは将来への新たな期待要因について、300字以内でご記入ください。	－	前回と同じ。
経済再生と両立する財政健全化			
2	財政健全化に向け、歳出削減等を始めとして様々な取組が考えられますが、具体的取組内容についてのお考えを300字以内でご記入ください。	－	債務残高は既に非常に高い水準にあり，すぐに返済できるレベルを超えている。長い時間をかけて返済するしかない。その際に重要なのは，返済の過程で，返済の「意志」と「能力」を国債保有者に対して示し続けることで，それによって財政に関する市場の予想をしっかりと制御することだ。それができないと国債暴落を招く。返済の「能力」は客観的に示すことができ，中期財政計画でもある程度示されている。難しいのは返済の「意志」だ。政権や政府の「意志」でもあるが，最終的には納税者の「意志」だ。今年4月の消費税増税後の議論では納税者の返済の「意志」が十分でないようにみえ，気がかりだ。納税者の「意志」を明示する制度を検討すべきだ。

政策コメンテーター報告（第２回、意見照会期間：2014年９月24日～10月６日） 渡辺　努：東京大学大学院経済学研究科教授

質問事項		選択式回答	記述式回答
女性の働き方に中立的な税制・社会保障制度等の在り方			
３－１	どのように女性の働き方に中立的な社会制度を実現していくべきとお考えか、その理由とともに300字以内でご記入ください。	－	私の専門分野でないため責任のある回答ができません。ご容赦下さい。
３－２	女性の働き方に中立的な制度を論じるに当たって、その背景にある事項（女性が働くことへの人々の意識や職場慣行、男性の働き方、子育て支援等の環境整備、家族のあり方等）について、特に言及すべきことがありましたら300字以内でご記入ください。	－	私の専門分野でないため責任のある回答ができません。ご容赦下さい。